

平成 27 年 9 月 7 日

南の風号外

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

素晴らしいです。やりました！！！！

『ハヤブサジャパン女子』 リオ五輪出場決定！！！！

本当に素晴らしかったです！！！！ 特に決勝は、言うことなしの戦い方でした。

85対50という結果でした。 ハヤブサジャパン女子の皆さん！！！！

感動と勇気そして、大きな夢と希望を日本中に与えてくださり

本当にありがとうございました！！！！

いやあ、何回も言いますが素晴らしい決勝でした。何が素晴らしいって、選手のメンタリティーが凄かったです。それに尽きます。それこそ、SKILLよりWILLです。

バスケットボール界がこういう状況の中、よくぞやってくれました。すべての暗雲が一気に払拭された感じですね。

ごちゃごちゃ感想を書くのもどうかと思いますが、南の風の宿命です。ズバッと書きます。

まず《完全アウェーの中のメンタリティー》、これが凄かった。12人の選手全員が、絶対に勝ってやるんだという『五輪出場』に向け、凝縮された集中性の中で戦っていました。そんな気がしました。もちろん、選手、スタッフ、関係者の周到に準備されたプログラムの中での勝利だということは、想像できます。しかしそれを見事にやりきった、選手のみなさんへ心からの敬意を表します。口で「やってやる」というのは簡単なんです。最後までやりきる難しさ、皆さんも経験があると思います。

次にスキルを見ます。

第1に、何と言ってもディフェンスです。決勝戦はペイントエリアで相手にやられた印象がありません。ポストの守り方、特にポストアップを遮断するディフェンス、読みと予測がしっかりできていました。また、チャレンジショット（シュートブロック）も見事でした。諦めずに跳ぶこと、そして3線のチャレンジショットが効いていました。高さのあるポストマンに対して、ヘルプしてシュートチェックに必ず跳んでいました。最後にビジョン、ディスタンス、フットワーク、ハンドワークの4つを、誰も気を抜くことなくやり切りました。ディスタンスでは、ワンアームの距離の徹底がなされ、ボールポイントをすることで相手にプレッシャーを与えました。本川選手の2度のドリブルスチールにその効果が表れました。ビジョンでは、5人が機能的に協力して、それぞれの役割を果たしました。例えば、中は絶対にやられない、ということの徹底。渡嘉敷選手、間宮選手、高田選手、王選手、山本選手がヘルプ、ボックスアウト、シュートブロックを常に意識してやり続けました。中国の長身選手はペイントで、楽なシュートが打てませんでした。ハンドワーク、フットワークに関しては、中国に比べ数段日本が勝っていました。まるで働きバチのように、手足を動かし続けました。 号外として次号へ続けます。